

近代建築をはじめとした歴史的建築物等の創造的活用による 北船場の都市再生

船場アートカフェ

大阪市立大学文学研究科教授

中川 真

大阪市立大学工学研究科准教授

嘉名 光市

大阪市立大学都市研究プラザ特任講師 ○高岡 伸一

1. 活動方針・目的

目的は大きく二つある。一つは歴史的建築物の魅力発信を通じて、無機質なオフィス街という街の一般的なイメージを塗り替え、広く地域の内外に向けて、歴史の街・文化の街としての北船場のイメージを定着させること。もうひとつはイベントの企画段階から建築の所有者や地域の方々に参画してもらい、大学と地域の協働を通じて、職業や年齢を超えた、まちづくりを担う都市の新しいコミュニティの核を形成することである。

2. 活動内容

我々は、かつての「大大阪」の栄華を今に伝える歴史的建築物の多さを北船場の大きな個性と捉え、その創造的活用によって内外の関心を高めることで、地域のまちづくりに取り組んでいる。

具体的には、2006年より毎年10~11月に「船場建築祭」と題したイベントを開催している。期間中、複数の歴史的建築物を会場として、アートイベントや近代建築めぐり、カフェや音楽ライブなど、様々なプログラムを実施している。とりわけ2008年からは「まちのコモンズ」と副題を加え、建築に限らず北船場の豊かな歴史や文化を様々な角度から紹介するプログラムを実施し、加えて公開空地などのオープンスペース活用を実践するなどして、歴史的建築物を中心としながらも、より包括的に北船場の魅力を発信するイベントとして規模を拡大している。

3. 他の活動団体の参考となる事例

少ない予算のなかで如何に充実した催しを開催するかが大きな課題となるが、地域のひとたちの人的ネットワークを活用したり、それぞれの専門や知識、また会場など、有形無形のあらゆるものを皆さんから少しずつ提供してもらうことで、少ない予算での開催を実現している。

また、大学と地域の協働という点では、地域の中に大学が船場アートカフェというサテライトを設置し、そこを拠点として研究者や学生が地域の中に積極的に入っていくことによって、緊密な信頼関係を築くと共に、催し開催にあたっては学生参加による人員確保が可能となっている。

4. 今後の課題等

より地域に根ざした活動として、如何にスムーズに主体を地域に移していくか、安定した予算の確保や実行委員会の充実などを考えなければならない。船場で展開されているその他の諸活動とどのように連携をとっていくのかも大きな課題である。また、船場アートカフェとしてはこの活動で培ったスキームを、他の地域で適用することができるのかどうかといった検討も必要である。

近代建築をはじめとした歴史的建築物等の創造的活用による北船場の都市再生

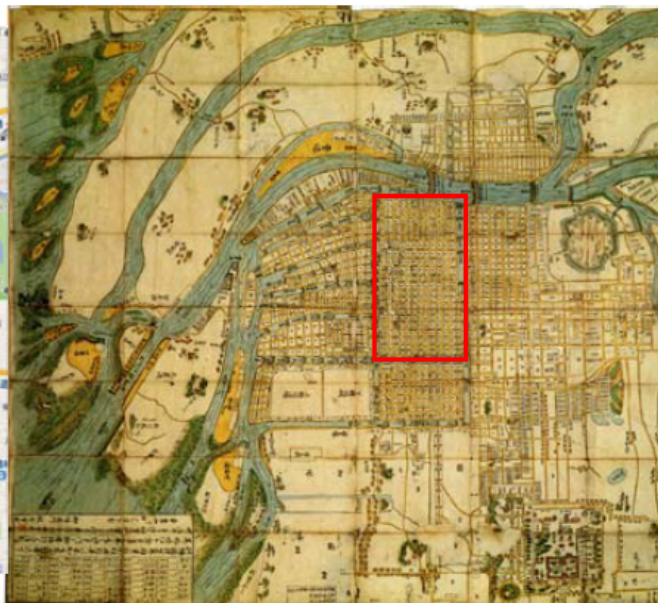
2011年2月1日
船場アートカフェ
高岡伸一

■ 船場アートカフェ

<http://www.ur-plaza.osaka-cu.ac.jp/>

<http://art-cafe.ur-plaza.osaka-cu.ac.jp/>

■船場



- ・南北2.1km、東西1.1km
- ・約230haの区域
- ・豊臣秀吉の大阪築城にまで遡る大阪の歴史都市
- ・近年は産業構造の転換、東京一極集中などでかつての活気を失っている

■大大阪時代

- ・大正時代から昭和のはじめにかけて、多くの近代建築が建てられた



■ 船場建築祭(2006年～):近代建築の活用



綿業会館(1931・重文)を会場としたアジア音楽コンサート



芝川ビル(1927・登録文化財)を会場とした舞踊パフォーマンス

■ 船場建築祭(2006年～):近代建築の活用



伏見ビル(1923・登録文化財)を会場としたアートインスタレーション



近代建築の屋上をめぐるツアーやイベントの開催

■まちのコモンズ(2008年～):まちの資源発掘と活用



浪花教会(1930)を会場としたまちづくりシンポジウム



学生ガイドによる北船場まちあるきツアー

■まちのコモンズ(2008年～):まちの資源発掘と活用



船場の老舗によるおもちつきや茶会など



公開空地やコインパーキングを活用した野外ライブ、オープンカフェなど